



# マスコミ青山

## 会報

Sep.2013 No.34



(文藝春秋刊:1785円)

今年4月、約3年ぶりに村上春樹氏の長編小説「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」が発売された。驚いたのは、発売前に50万部の増刷が決まり、発売一週間で、100万部を突破するという現象。出版不況が叫ばれるなか、なぜこのような現象が起きたのか。出版元の(株)文藝春秋、宣伝プロモーション局次長の柏原光太郎氏にそのあたりの事情を聞いてみた。

**発売1週間で100万部突破！  
村上春樹著「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」**

この「色彩を持たない...」が発売された4月12日の深夜、24時間営業の書店には行列ができ、なかにはカウントダウンまで行われる書店もあった。背景には、既存のメディアとネット社会をうまく活用した同社の展開があり、ネットの力の大きさをあらためて認識したと氏は言う。

(詳しくは次ページ)

### 【柏原光太郎氏略歴】

1986年慶應義塾大学経済学部卒業。  
株式会社文藝春秋入社。「週刊文春」「文藝春秋」「オール讀物」編集部、文春文庫部長、出版プロモーション部長を経て、現在、宣伝プロモーション局次長兼宣伝プロモーション部長兼「東京いい店うまい店」編集長。



**(株)文藝春秋  
柏原光太郎氏に聞く**

## 10月26日(土) マスコミ青山会総会にゲスト出演！

マスコミ青山会総会の日程が決まりました。例年通り土曜日の開催です。  
総会後の講演では、(株)文藝春秋、柏原光太郎氏をお招きしてお話を伺う予定です。

### 開催概要

**10月26日(土)  
開催**

- 日時 13年10月26日(土) 16:20~20:30 (開場 16:00)
- 場所 ①総会・講演会(アイビーホール青学会館 3階「アロン」)  
②懇親会(アイビーホール青学会館 2階「ミルトス」)
- 会費 7,000円(年会費2,000円+懇親会費5,000円・学生の懇親会参加費5,000円)
- 内容 ①総会・講演会 16:20~18:00 (会場 アイビーホール青学会館3階「アロン」)  
②懇親会 18:30~20:30 (会場 アイビーホール青学会館2階「ミルトス」)

- (※)お申込み ①FAXは同封の総会案内裏面に必要事項を記入後  
03-5724-4945 (マスコミ青山会事務局)まで  
②Eメールは、info@mc-aoyama.netまで 締め切り 10月11日(金)  
③年会費&懇親会費のお振込み … 三菱東京UFJ銀行 築地支店(普) 0111738  
マスコミ青山会 事務局長 武藤靖人(ムトウ ヤスト)

「今回の出版にあたり、事前の告知やPRはどのようにおこなったのか、教えてください。」

「今まで弊社では書物をプロモーションするという専門の部署はなかったんです。編集者が自分で本の企画からはじめて最後に読者まで届けるということをしてきたわけなんです。ところが昨年四月、プロモーションを専門にする部署ができました。そこでまず取り組んだのがニューズレターを月に二回出すということ。今回も、発売の二か月前（二月十六日）に予告の新聞広告をだすと同時に、ニューズリリースを配信しました。ただこのときの告知は、村上春樹の「新刊長編書き下ろし」が四月下旬に出るということだけで、書名も伏せていたんです。そうしたらその話が新聞社のニューズサイトに掲載されたんです。これが今度はネットでもすごい話題になり、ニューズサイトやチャンネルなどに飛び火したんですね。」

「ということは、事前に綿密な戦略があったということではないんですか。」

「ええ、そうです。ネットのちからのものすごさを実感しましたね。」

「新聞などには、「情報の小出し作戦」が的中、などと書かれていましたが……」

「もともと村上春樹さんの意向に、読者のかたには、まっさらな状態で本を読んでもらいたいたいというものがあったんです。」

「ですから直前まで、本の題名や表紙のデザインなどは伏せていたんですね。題名をお知らせしたのが一か月前の新聞広告です。この題名をお読みになった読者のかたが、題名から推測して、こんな内容の本だろうということで、さらに話題が広がっていったんですね。」

「では広告としては新聞広告の三回だけということですか。」

「発売前はその三回だけです。一回目が二月十六日の「村上春樹書き下ろし長編小説 待望の新聞 4月刊行」というこれだけです。二回目が三月十五日、ここではじめて題名「色彩を……」を明らかにしました。これは本の予約をとるためにも必要だったんですね。そして三回目が発売当日の四月十二日、ここで表紙も掲載され、全貌が知らされたわけです。もうひとつ言えることは、ウェブを重視したということ。」

「それはネットでの盛り上がり期待してのことですか。」

「われわれとしては、まず前作の「1Q84」をかなり意識し研究しました。「1Q84」はアマゾンの予約が十四日間で一万冊になったと言われていますが、今回はなんとかこれを超えようと考えていたんです。そのために今まであまりしなかったアマゾンへも広告を打ちました。春樹さんの読者層は、年代で三十年代、四十年代という新聞を読んでいない層のかたが多いので、ウェブの影響を意識したんです。その結果一日早い十三日目に一万冊の目標は達成しました。」

「そして発売当日のカウントダウンイベントを迎えるわけですね。」

「イメージとしては、Figmaの発売のようなカウントダウンをやりたいということがありました。先ほども言いましたように、春樹さんの意向で、発売まで表紙も見せないということでしたが、発売と同時に午前0時ならいい二十四時間営業で春樹さんにふさわしいところといえば、代官山の蔦屋さんです。そこで前日十一時からイベントをしました。」

「当日、テレビの中継もあったようですね。」

「このネットでの盛り上がり、既存のメディアも焦り始めたのでしょうか。新聞の記事になるとともに、テレビ局からも取材の申し込みがきました。けっきょく、深夜にもかかわらず、テレビでは4・6・8チャンネルでの生中継、そして翌朝にはNHKでも大きく取り上げられました。蔦屋さん以外でも、三省堂の神保町本店では本を積んで大きなタワーにしたり、紀伊國屋の梅田店では、ほぼすべての平台を春樹さんの本で埋めつくしたりしていただきました。」

「そして発売一週間で百万部達成です。」

「おそらく文芸書では最速だと思っています。これも村上春樹さんの本だからこそできたことでしょう。かれのファン層がほかの作者に比べて厚かったことと、そしていい形で既存のメディアとネットとが融合できたことだと思っています。」

「本日はありがとうございました。」

今年三月、あのカマボコ屋根で親しまれた東急東横線渋谷駅ホームに最後の電車が入ってきた。深夜にもかかわらず、その日限りで閉鎖される駅舎にお別れしようと、ラッシュ時を思わせる混雑ぶりだった。翌日から、このホームはヒカリエ地下へと移動する。同時に渋谷駅は始発駅、終着駅ではなくなり、単なる通過駅になる。渋谷はどうなるのか…

長年、渋谷の街を見てきたシブヤ経済新聞編集長の西樹(にしたき)氏にいろいろ伺ってみた。

「西さんご自身も青学大卒業ですが、現在の渋谷の変貌ぶりをどう思われますか。」

渋谷はまだまだ変貌しますね。現在はその前哨戦というところだと思います。「と言いますと…」

今後十四年間くらいにわたって順番に建て替えが進みます。まず東急百貨店の東館が閉館され、西館も取り壊しになります。そして、東横線の跡地に46階建ての高層ビルが7年後に完成します。ヒカリエの目の前にヒカリエよりも高いビルができることになるわけです。これがおそらくいちばん大きな目玉になるでしょうね。そしてそこを核としてJRを挟んだ向こう側、モヤイ像のところにも大きなビルができます。東急プラザも建て替えが決まっていますし、バスターミナルも移動します。

## 変わる渋谷・変わらぬシブヤ



(最後の電車を見送る東横線渋谷駅ホーム)  
(シブヤ経済新聞提供)

渋谷の街はいつも工事中...そんなイメージをお持ちのかたも多いはず。昨年、かつての東急文化会館跡に高層複合ビル「ヒカリエ」ができ、今年の春には、東急東横線、東京メトロ副都心線の相互乗り入れが始まった。渋谷を取り巻く環境が大きく変わり始めた今、渋谷はどうなるのか... 青学生にとって馴染みの深い街、渋谷の変貌を追ってみた。

「まだまだ工事が続くわけですか。逆に、ハチ公広場と東急の東館があるところは全部平らになつてしまふんですね。そして明治通りの上に銀座線の渋谷駅ができるという計画のようです。この枠組みで全部が完成するのが十四年後…」

「西さんからみて、渋谷の魅力はどのようなところでしょうか。」

渋谷の街は、行政が手を入れなくても民間の競合関係のなかで栄えてきたんですね。東急対西武というのがその大きな役割を果たしてきたのですが、具体的には109やパルコ、ハンズにロフトなどです。それと九十年代後半に生れたギャル文化が渋谷を支えてくれましたね。109が大手と組まなくてインディペンデント系のアパレルを育ててくれたように、景気の悪いときに渋谷が頑張れたのは、このギャル文化のおかげでしょう。

もうひとつは、広域渋谷圏とわたしたちは呼んでいるのですが、渋谷を中心に代官山や表参道、原宿、恵比寿などがぜんぶ繋がっているんですね。一駅圏内なんですけど、これらを総称してわたしたちはカタカナで「シブヤ」と呼んでいます。わたしたちが学生のころは、渋谷と原宿のあいだには何も無かったので電車で行っていましたが、今は歩いていかないと面白くない。そこにはいろいろなお店や情報がある。そんな街と街とが連携しているのが渋谷の魅力でしょうね。(談)

# 活動報告

今年の総会は、10月26日(土)です(詳しくは同封の案内チラシをごらんください)。



(村井知哉会長)  
(現職)電通新聞局長

## 村井会長挨拶

昨年の総会において会長を拝命してから1年余りが経ちました。先人たちのこれまで築き上げてこられた成果をさらに発展するよう誠心誠意尽力して参ります。

マスコミ業界は時代の変化と共に大きな転換期を迎えております。しかしながら私はマスコミ界こそが、「時代、世の中を動かし、人々に夢をそして勇気を与える」という力をまだまだ持っていると感じています。マスコミ業界の皆さまの力を合わせて、マスコミ青山会の新たな時代を創っていきたいと思います。今年もより一層魅力的な総会にしていきたいと考えておりますので、皆様奮ってご参加ください。より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 【若手社員交流会】...大盛況！年末に次回開催も決定！

夏の暑さもやわらいだ9月6日(金)、毎年恒例の若手社員による交流会を実施しました。今回は例年に比べて2013年新卒社員や2014年卒業予定の内定者が数多く集まり、とてもフレッシュで若々しい会となりました。特に新卒社員にとってこの時期は、入社して5か月ほど経過した段階であり、実際の仕事現場に出始めたばかりで、さまざまな悩みを抱えているようです。そのためか、若手社員を次々につかまえては熱心に質問をするなど、大変積極的な姿勢を見せてくれました。

また、若手社員も、活躍する分野は違うとはいえ、同じような課題や目標をもつ同世代どおし、横の交流を深めています。参加者からはその場で年末に忘年会を開催するアイデアも出るなど、とても盛況な会となりました。

忘年会の日程は追って決定いたしますが、ご案内を希望される方は、事務局の中村までお知らせください。

■中村全信 masanobunakamura1978@gmail.com

## 【マスコミQ&A】

今年で11回目を迎えるマスコミ業界を志望する学生のためのイベントです。

■日時 10月9日(水) 18:00～

■会場 青山キャンパス

■内容 新聞・雑誌・放送・広告・IT業界で活躍するOBによる業界説明と就職活動対策。2014年度マスコミ業界内定者の学生も参加します。

■中村全信 masanobunakamura1978@gmail.com

## 青山学院大学マスコミ業界就職データ

業界別	
【新聞・出版・印刷】	48名
【放送・通信】	31名
【インターネット】	20名
【広告・制作】	77名
合計	176名

(2013年4月現在)

マスコミ青山会のホームページはこちらです。

<http://www.mc-aoyama.net>

## 【編集後記】

度重なる雷雨や竜巻など、数多くの異常気象に見舞われた今年の夏でした。月日が流れるにつれ、変わってゆく気候と同じように、街並みやトレンド、我々自身、そしてこの会報も変化を遂げています。今年も、無事会報を皆様のもとへ届けることができました。最後までのご精読に感謝するとともに、ご協力して下さいました皆様に改めて御礼申し上げます。

(編集担当 鈴木章・藤田翔太郎)

(e-mail info@mc-aoyama.net)